

JP164 大東諸島 (だいとうしょとう)

沖縄県：北大東村、南大東村

位置	N 25° 51′ E 131° 15′
面積	4,250ha

環境構成【島嶼／森林】

沖縄本島から東へ約 400km、太平洋上にある。珊瑚礁の数回に亘る隆起によって形成された。島を形成する珊瑚礁の厚みは数百メートルから数千メートルに達する。島の面積は南大東島が約 30.6k m²、北大東島が約 12.71k m²、沖大東島が 1.147k m²。1900 年の入植までは、熱帯の原生林に覆われた無人島で、隆起珊瑚礁のため島の中央部が低く、多数の池や湿地が散在する。植生は、傾斜地や島中央の湿地や池のまわりがわずかに森林である以外は、ほとんどがサトウキビの農耕地となっている。

選定理由

A2 リュウキュウコノハズク

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（大東諸島）

保全への脅威

- ・開拓による全域からの樹木の伐採、のち植樹、過去 30 年ほど農地改良により樹林地が減少した
- ・外来種の影響（ネコ、イタチ、オオヒキガエル、ミヤコヒキガエル、タイワンカブトムシ、キジ）

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
変わらない
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない

- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（大阪市立大学・環境省）
内容：ダイトウコノハズク用巣箱設置
- ・ 外来種のコントロール：実施者（NPO 法人 どうぶつたちの病院 沖縄）
内容：ネコの個体数把握、避妊手術
- ・ 環境教育活動：実施者（ダイトウコノハズク保全研究グループ）
内容：観察会、講演会
- ・ 保全のための人材育成活動：実施者（大阪市立大学理学部）
内容：大学生の鳥類生態学研究への参加
- ・ 法律制定、政策、規制：実施者（環境省）
内容：鳥獣保護区、特別保護地区
- ・ モニタリング調査：実施者（大阪市立大学）
ダイトウコノハズクの詳細な生態学的調査研究
- ・ その他：国指定大東諸島鳥獣保護区保全事業検討委員会が過去4年間にわたり様々な観点から検討を重ねている。森林、昆虫、鳥、ネコなど総合的に調査している。在来種ダイトウビロウの樹林地を保護、育成し、持続可能な生息環境の確保を目指している。

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・ ダイトウコノハズク保全研究グループ

見られる鳥

海洋のまっただ中にあり、渡り鳥にとって貴重な島となっている。また、ダイトウカイツブリ、ダイトウコノハズク、ダイトウヒヨドリ、ダイトウメジロ等固有の亜種を含む数多くの種が生息している。これまでに、北大東島では約 95 種、南大東島では約 130 種の鳥類が記録されている。

留鳥	ダイトウコノハズク、バン、カイツブリ、マガモ、カワセミ、リュウキュウヨシゴイ、ヒヨドリ、モズ、メジロ
冬鳥	ミサゴ、トビ、サシバ、ダイサギ、ゴイサギ、オオバン、アオサギ、ヒドリガモ、コガモ、カワウ、ジョウビタキ、ルリビタキ、シロハラ、アオジ、メボソムシクイ
迷鳥	サカツラガン、クロツラヘラサギ

